

第11回雨水ネットワーク全国大会in東京 大会提言

本提言は、10年間、雨水ネットワークが行ってきた活動や経験に基づき、将来の気候変動や社会の変化を見通し、今後の雨水管理の在り方、進め方について提言するものである。

基本原則

1. 都市の雨水は全て地下に潜り、不可視の状態となっていることが、水問題の解決を難しくしている。すべての人が雨水に関心を持つように、身近な“雨水活用（貯留・利用・浸透・蒸発散）”やグリーンインフラの普及など、雨水の見える化を促進する。
2. “雨水活用”に在っては、治水・利水・環境・非常用水の多面的な機能を総合的に発揮するように考慮する。
3. オンサイトによる“雨水活用”が原則であり、水を移動させない。
4. 良質な緑の増加が流出抑制につながるという考え方を共有するとともにその技術を確立する。
5. “雨水活用”を進める時には、人と人がつながり、緑豊かな地域が形成されるよう努める。

提言1 人へ

＝雨水市民へ＝

雨の来し方、行く末を自分事として理解を深めよう
身近な防災のために雨水活用を進めよう
住んでいる場所ごとにできる雨水の取り組みを進めよう
市民が声をあげることで自治体・行政を動かそう
市民同士のつながりを深め、地域を越えたネットワークを広げよう

＝雨水行政へ＝

雨と関係のない行政分野はなく、すべての行政分野が連携して取り組もう
極端気象に対応する多様な水資源として雨水を位置付けよう
各主体が活動しやすいように最新情報を提供し、場づくり、人づくり、機会づくりに努めよう
雨水法を広め、よりプライオリティの高い施策展開をめざそう
「雨水循環モデル都市、モデル地区」を選出し、自治体の意識を高めよう

＝雨水産業へ＝

新製品・新技術で普及が停滞する雨水活用を活性化しよう
地域と連携し、企業を起点とした雨水活用を進めよう
雨水活用の産業化をめざそう

＝雨水学界へ＝

雨水活用の実態を定量的につかむために専門家が役割を果たそう
雨水の学会基準を国レベルの基準に高めよう
分野を越えた学会間の連携を実現しよう

提言2 未来へ

次世代を育てる雨水教育を進めよう
地域の文化に根差して個性ある雨水活用を進めよう
雨を見える化し、雨の美しさ、心地よさを訴えよう
緑と一体に雨を考えるグリーンインフラを進めよう
雨水を水源とした地域給水システムを実現しよう

提言3 雨水ネットワークの今後へ

雨水ネットワークに市民、行政、産業、学界のそれぞれの分野の代表者からなるコア会議を設置し、雨水社会を進展させるために社会への働きかけ、情報の共有、地域間・世代間の交流を促進する。

雨水ネットワークコア会議は、これまでの10年を踏まえ、これから10年の戦略を考え、全国の仲間と議論し、具体的に社会に働きかける。

雨水ネットワークの国際連携を進める。